

「野生動物管理モデル・コアカリキュラム」試行における受講者アンケート

宇野裕之¹・高田隼人¹・小池伸介¹・鈴木正嗣²・伊吾田宏正³・江成広斗⁴・小寺祐二⁵・黒崎敏文⁶・中川 元⁷
横山真弓⁸・山端直人⁸・丸山哲也⁹・梶 光一¹

(¹東京農工大, ²岐阜大, ³知床財団, ⁴山形大・⁵宇都宮大・⁶東京環境工科学園・⁷知床自然大学院大学設立財団・⁸兵庫県立大・⁹栃木県)

背景

目的

野生動物管理教育に対する受講生のニーズや希望等を明らかにして、体系的な教育プログラムの実施方法及び実施体制の確立を目指すことを目的とする

野生動物管理学に基づく科学的な計画立案、実践、モニタリング等を担うことができる専門人材を育成するシステムの構築を目指して、「令和4年度鳥獣対策スペシャリスト育成支援事業(農林水産省)」を活用し、「野生動物管理モデル・コアカリキュラム(コアカリ)」の試行を行った。

2022年12月28日～2023年1月27日まで、受講生291名を対象に、オンラインによるアンケートを実施し、135名から回答を得たので報告する。

*野生動物管理コアカリとは？

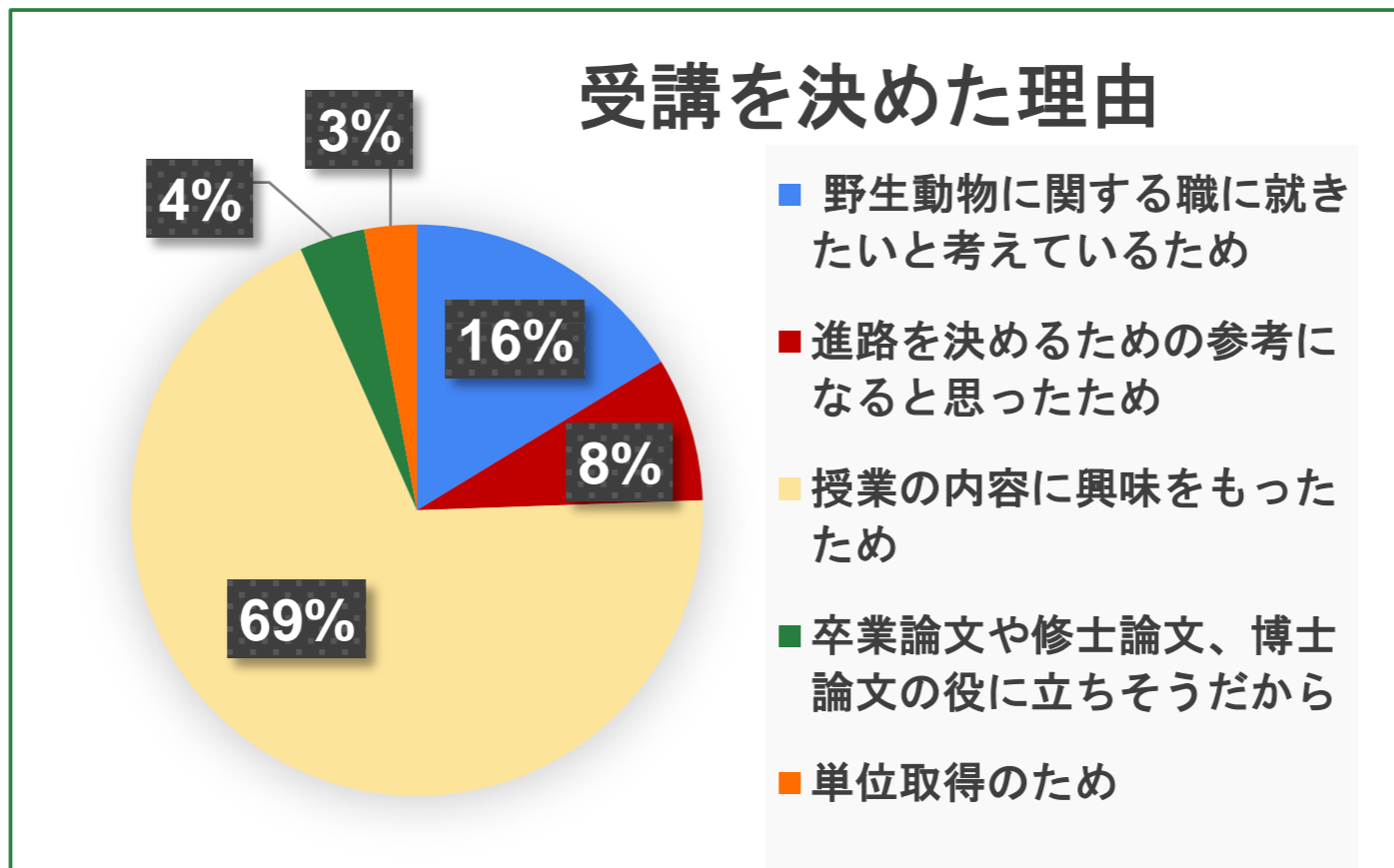
農水省・環境省、7大学(東京農工大・岐阜大・兵庫県立大・宇都宮大・酪農学園大・山形大・愛媛大)及び有識者が連携して策定した、専門人材が最低でも習得すべき知識と技術を含む体系的な教育プログラム[鈴木・吉田(印刷中)]。

表1. 2022年度コアカリ試行の科目、学修項目、講師及び受講者数

科目名	主な学修項目	講師	受講人数
野生動物保全管理学	個体群動態、モニタリング、個体群管理、生息地管理	宇野、梶(農工大)、鈴木(岐阜大)、高木、栗山(兵庫県立大)	235名
野生動物被害管理学	農林水産業被害の背景・要因・実態、被害軽減手法	小寺(宇都宮大)、小池(農工大)、須藤(イグレットオフィス)	216名
自然保護と自然資源管理	自然資源、ガバナンス、資源的価値、消費的/非消費的活用	伊吾田(酪農大)、土屋(農工大)、鈴木、中川(知床大学院)	212名
鳥獣・環境関連法規・政策	鳥獣保護管理法、森林関連法規、鳥獣被害防止特措法	鈴木、鳥居(自然公園財団)、増田(林野庁)、横山(兵庫県立大)、黒崎(東京環境工科)	178名
住民参加型計画立案手法	アクションリサーチ、コミュニティ、土地利用計画	山端(兵庫県立大)	132名
住民参加型計画立案演習	実地調査方法、ワークショップ、被害対策推進手法	山端、横山、鈴木、梶、宇野、高田、伊吾田、丸山(栃木県)他	40名

所属・受講理由など

- アンケート回収数：135
回収率：46.4% (135/291)
- 学年：1~2年生(58%)、3~4年生(28%)
5年生(修士含)以上(14%)
- 受講理由：「内容に関心」69%、
「職・進路」24%、「その他」7%

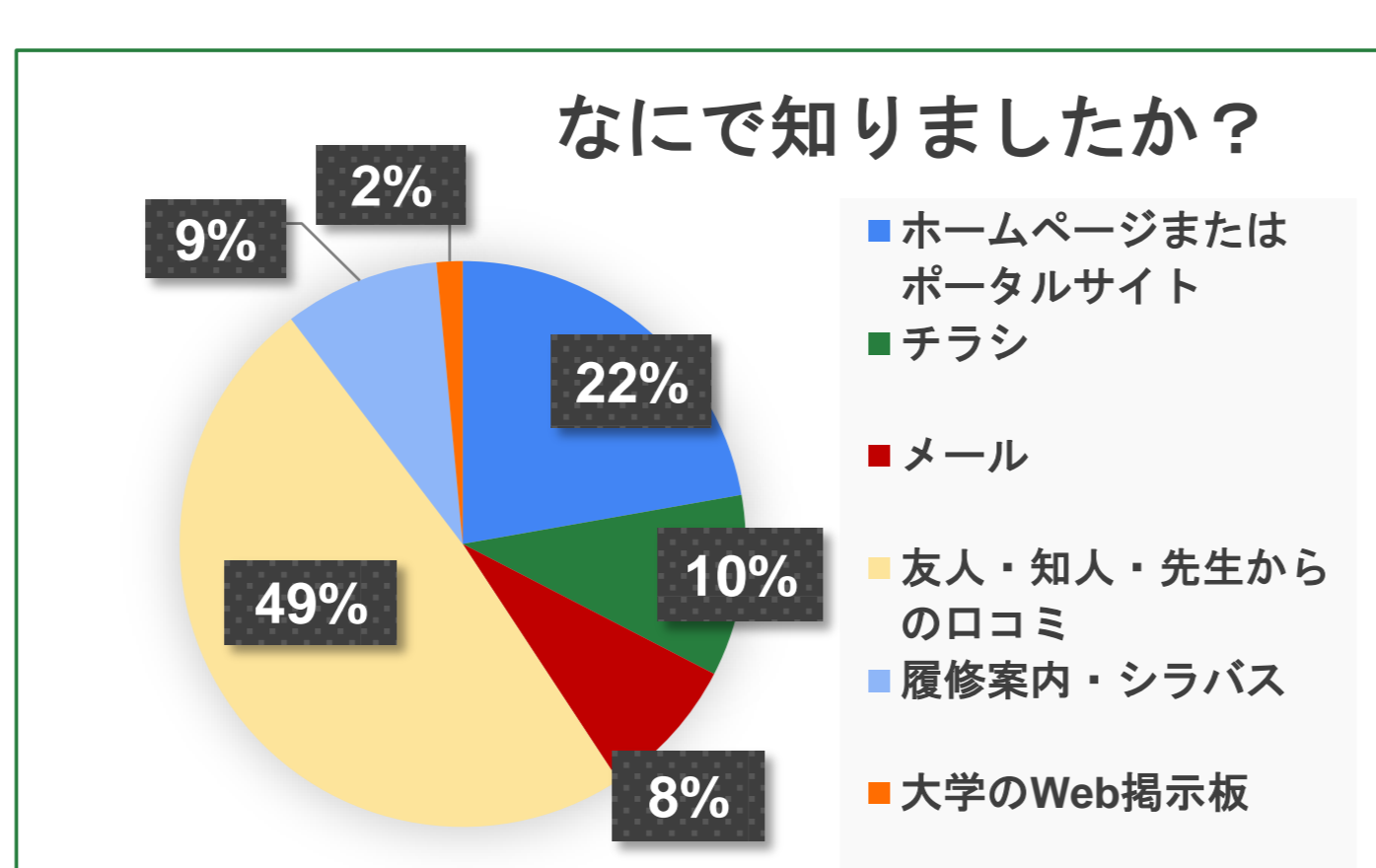
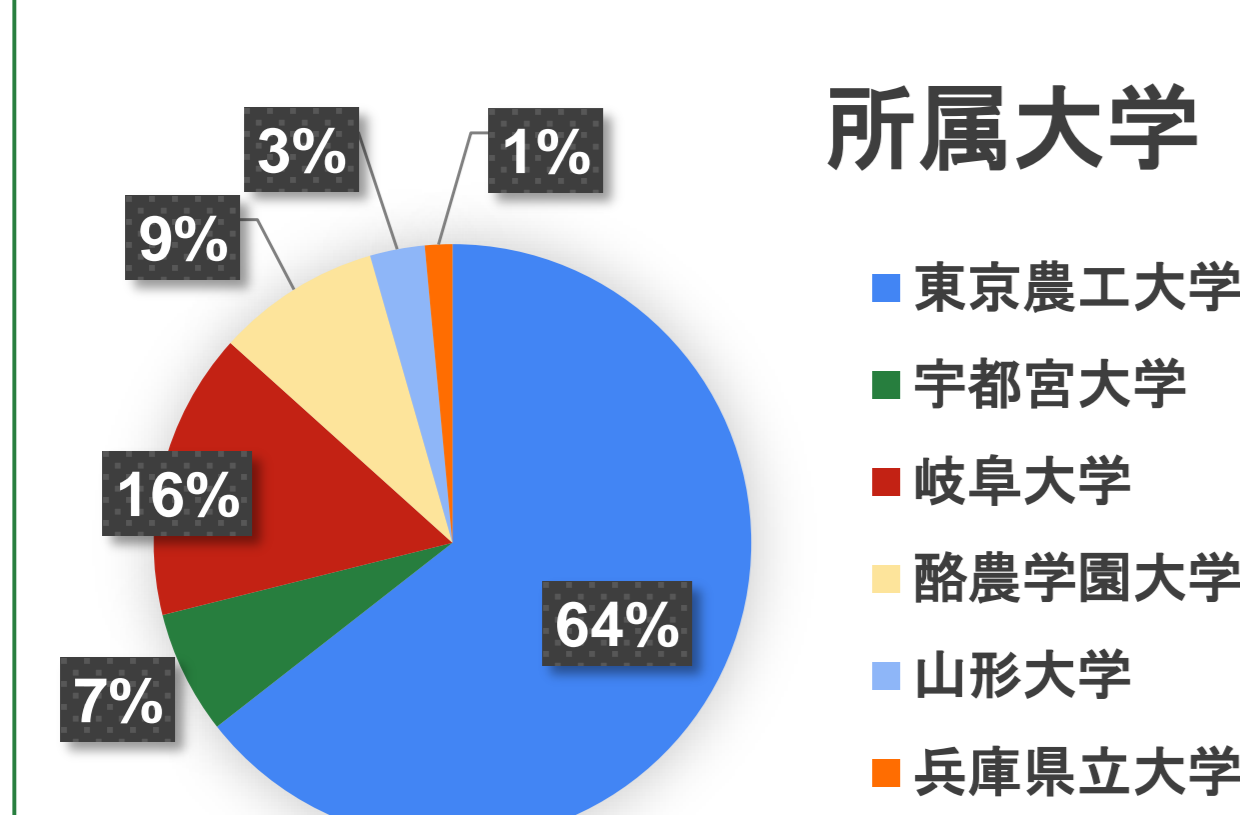


まとめ

- ✓ コアカリのニーズは非常に高いこと(オンデマンド講義と対面による実習の重要性)
- ✓ 認証制度があれば資格を取得したいこと、リカレント教育の要望も多い
- ✓ 将来、野生動物や環境関連の職種に就きたいという希望
- ✓ 「単位互換のための連携協定」等による実施体制が必要なこと

表2. 自由記述欄の主な意見

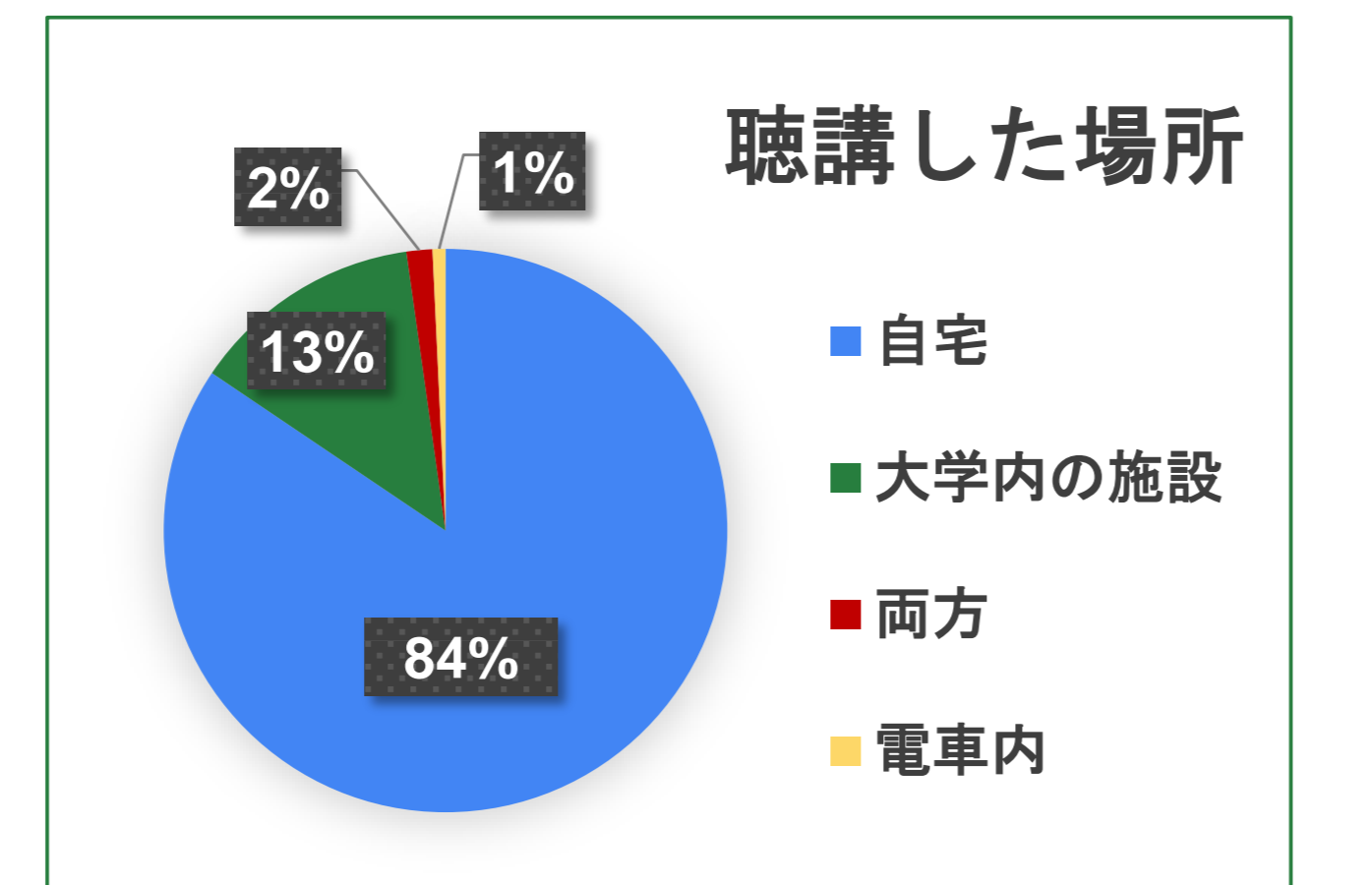
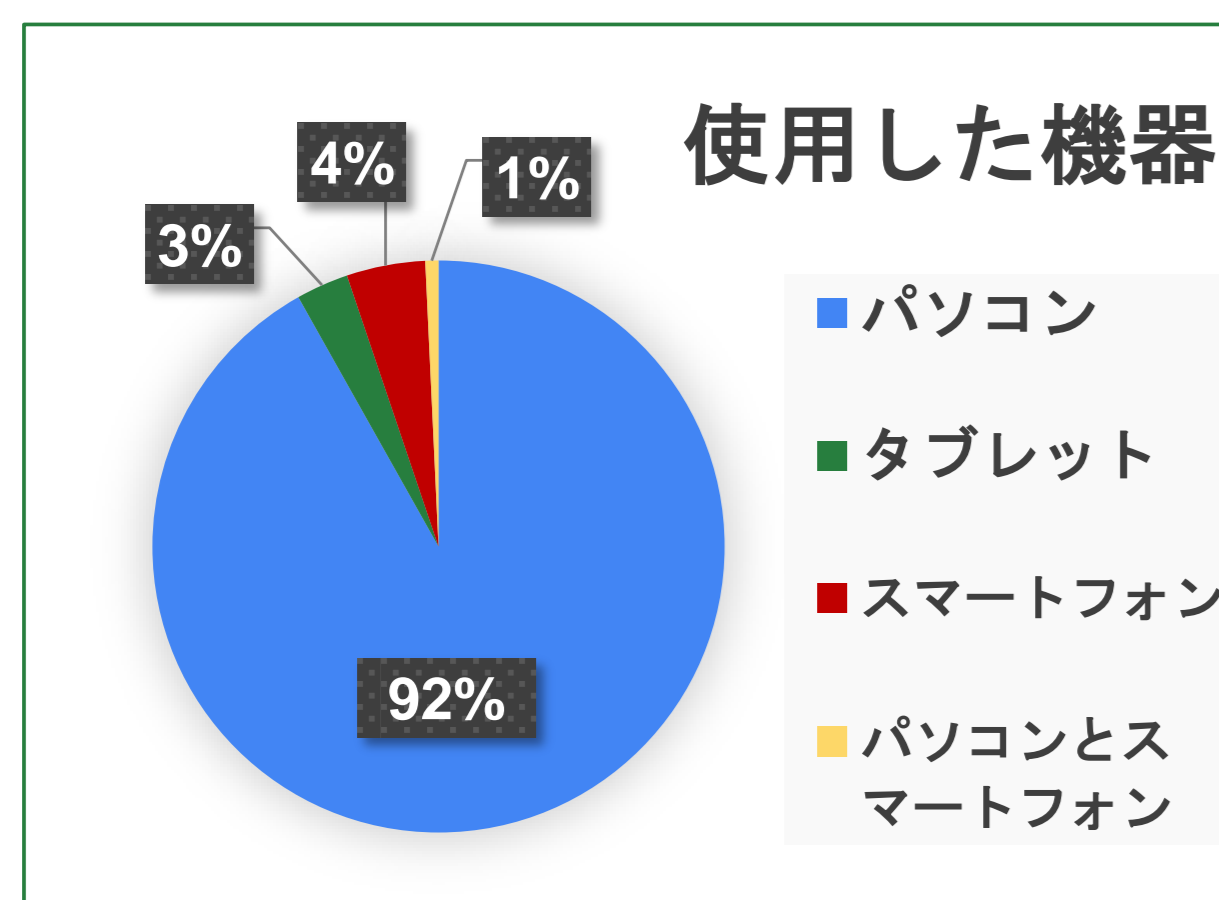
項目	主な意見
全体	野生動物の生態や被害、法律等を包括的に学ぶことができ非常に有益 オンデマンドを利用して大学や機関が協力した授業が増えると良い
開催方法	オンデマンド講義が良かった(再視聴可能)、レポートが授業内容の復習~学習効果が高いと感じた 一方通行の学習形態は面白さに欠ける。実習(対面)が重要
レポート	課題のボリュームが多かった、講義内容の要約に留まり、深掘りできなかった
単位認定	所属大学に縛られず一律の基準を設けて単位認定をしてほしい
その他	これ以上講義数が増えると、通常の講義との両立が難しい(スリム化必要)



*試行のため、東京農工大学では学部共通専門科目として開講(単位認定有)、他の5大学では成績評価の上、合格者には「講習修了証」を発行した。

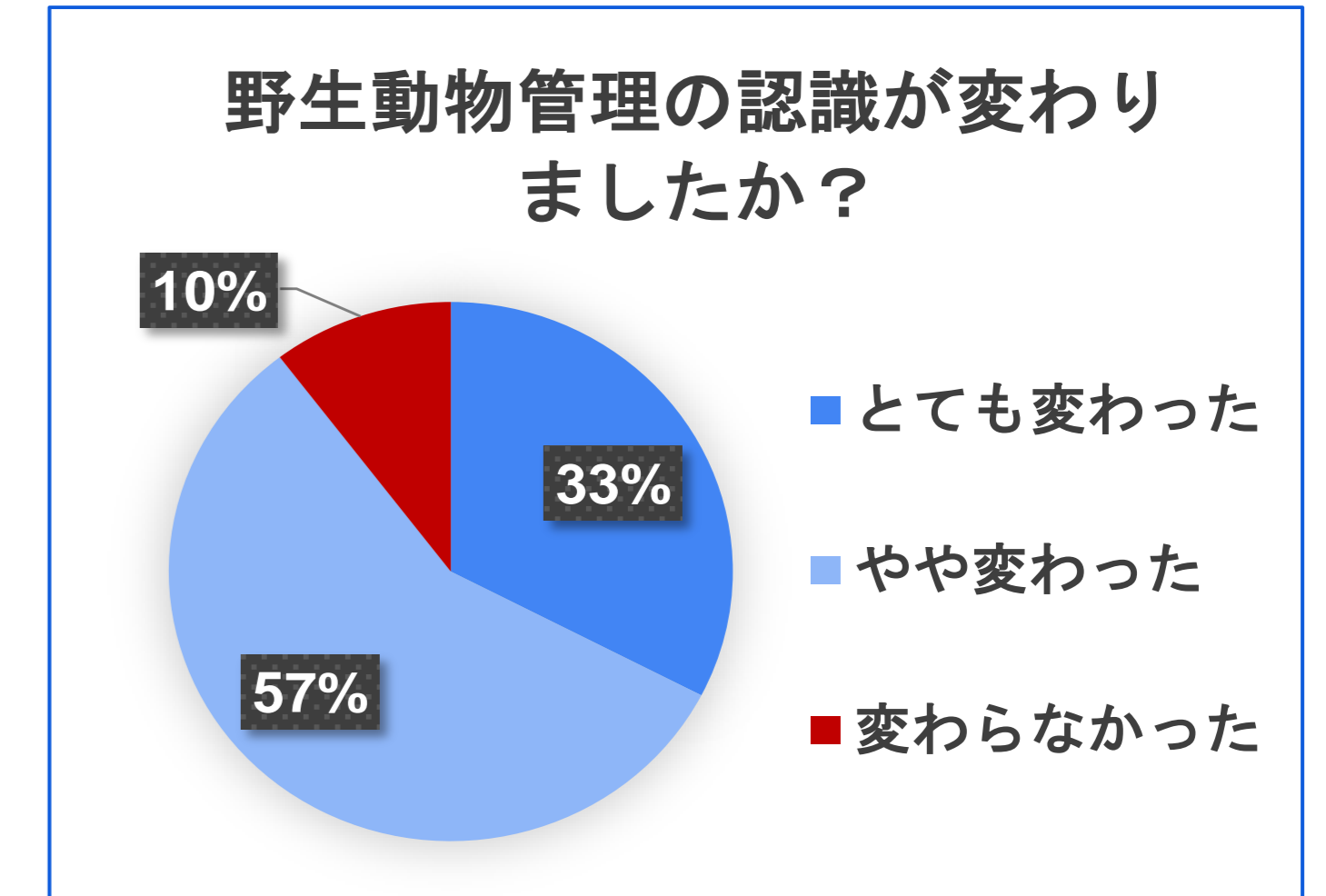
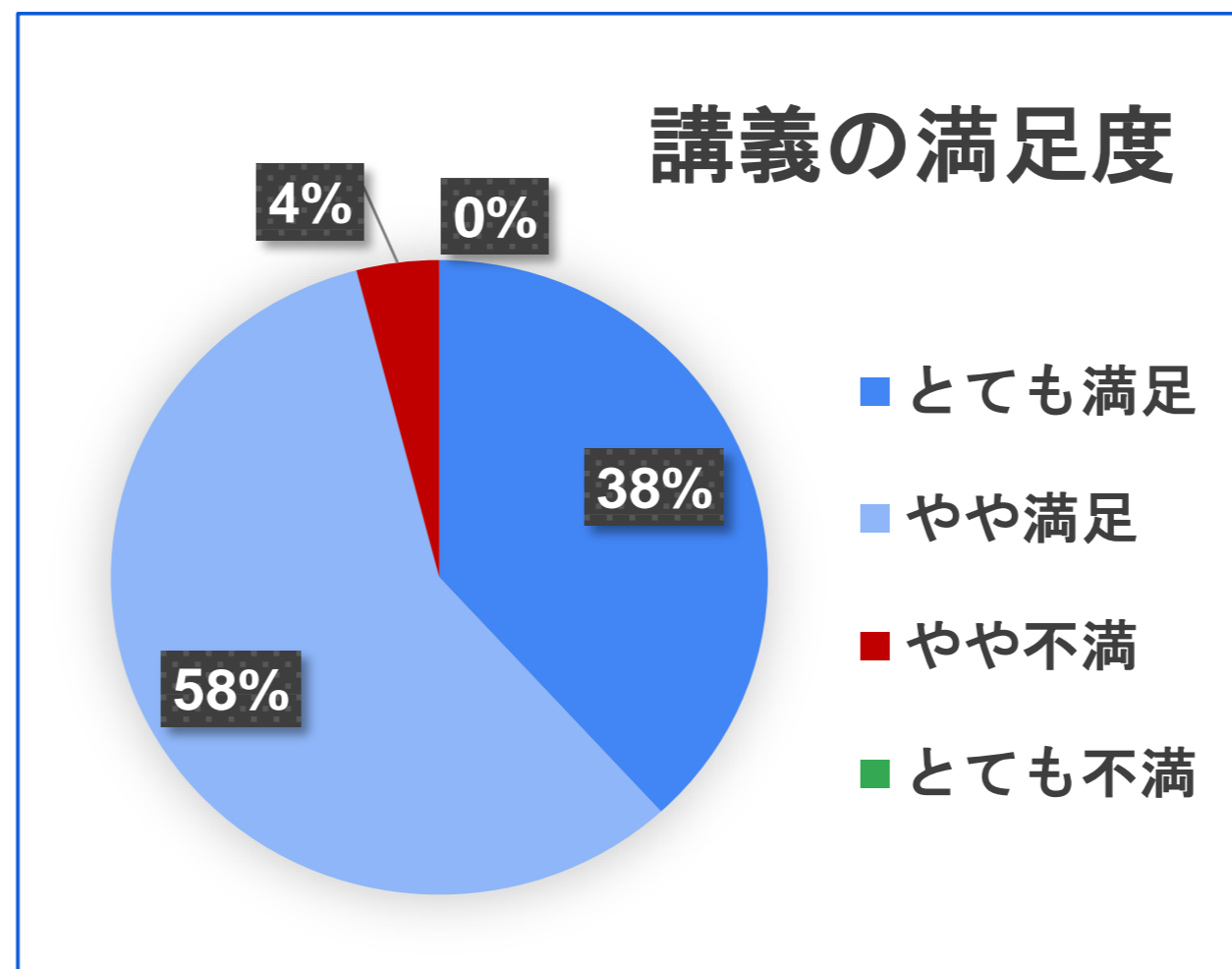
受講の方法(オンデマンド)

- 講義はPCで受講(92%)
- 聴講した場所は自宅が最も多く84%、次いで大学内が13%



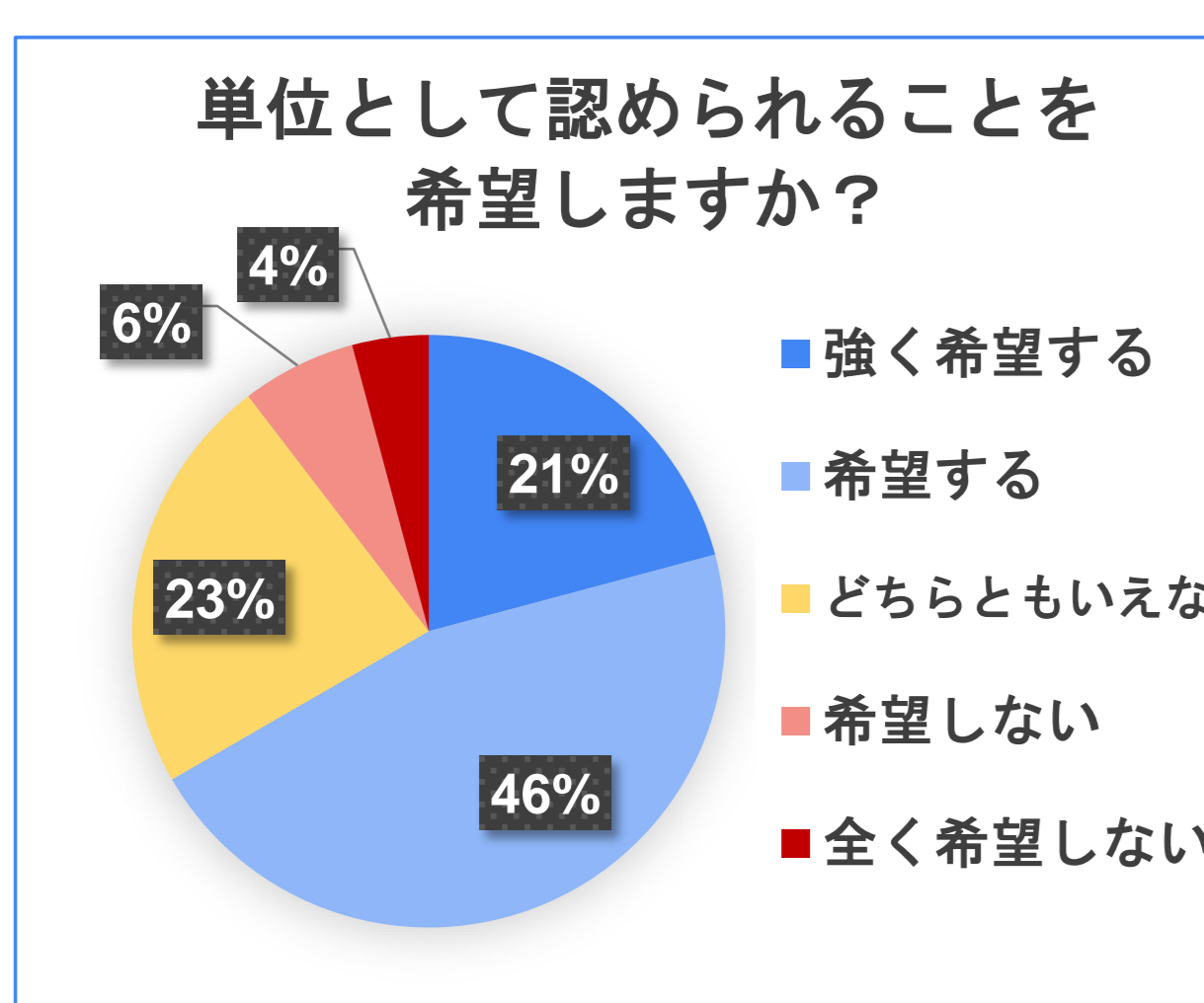
講義(オンデマンド)

- 講義の満足度：「満足」96%、「やや不満」4%
- 野生動物管理の認識が変わった(90%)
- 講義の難易度：「難しい」10~21%、「易しい・ちょうど良い」71~90%

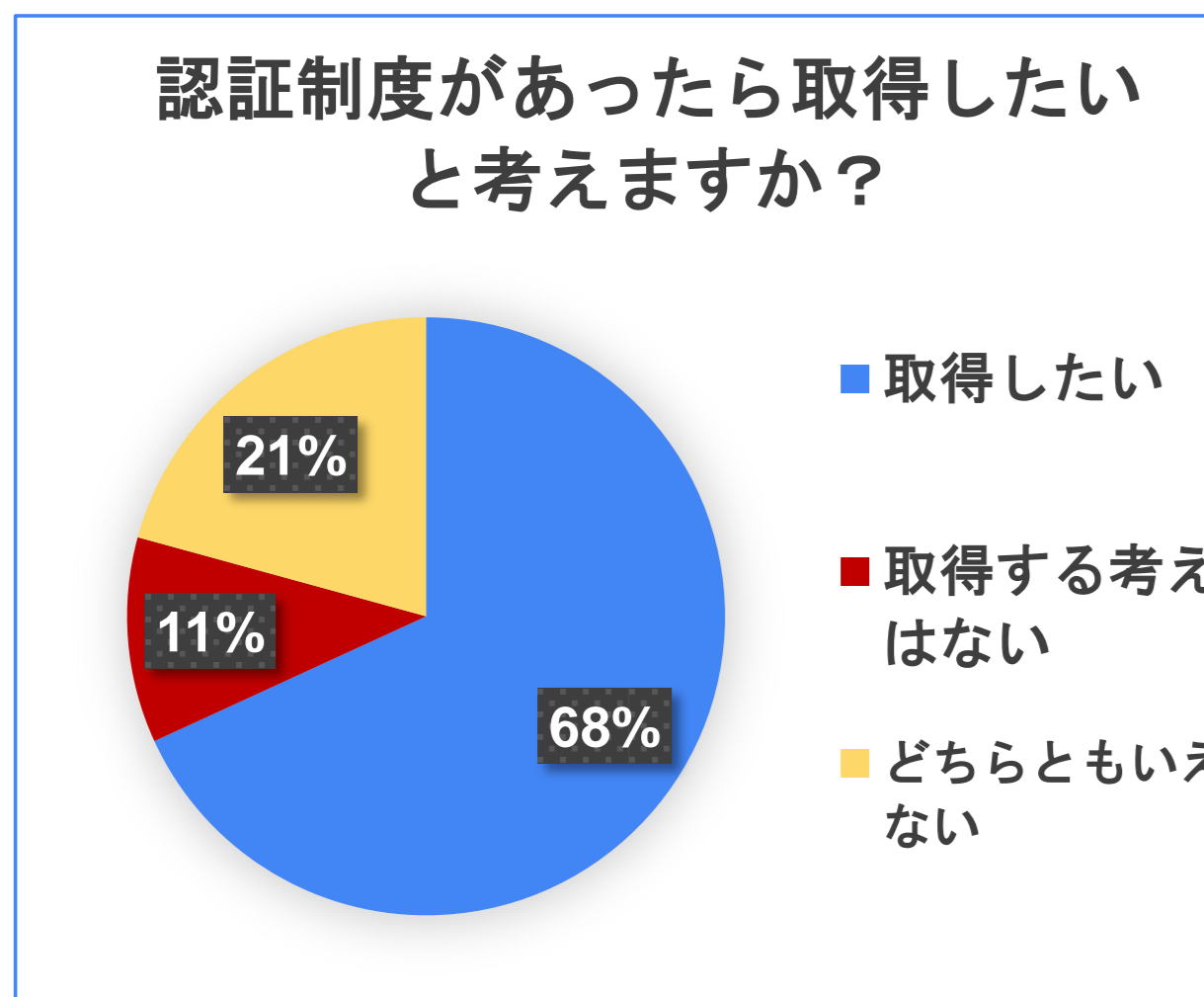
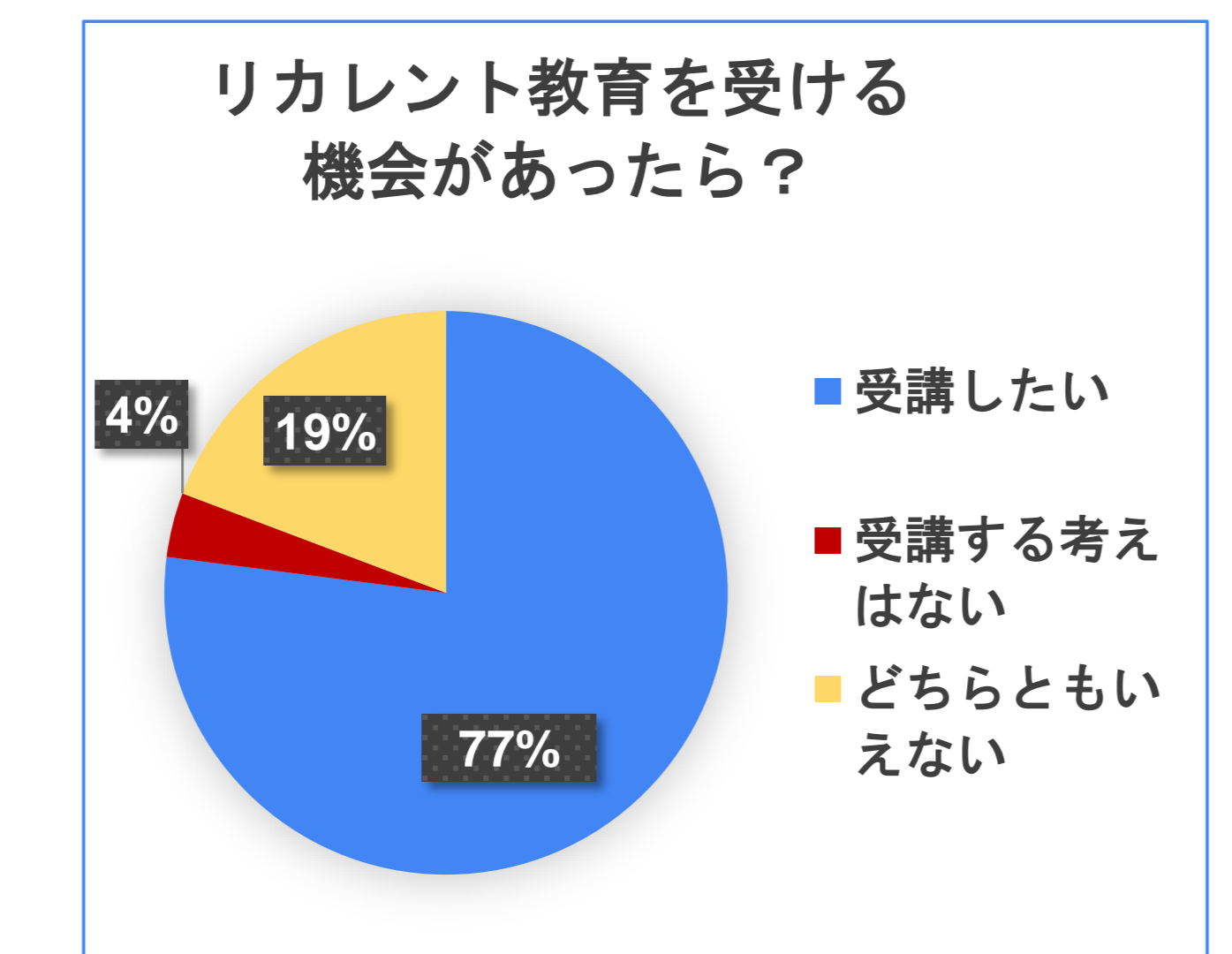


コアカリに対する希望・要望

- 卒業に必要な単位：「希望する」67%、「希望しない」10%
(東京農工大を除く受講生49名が回答)

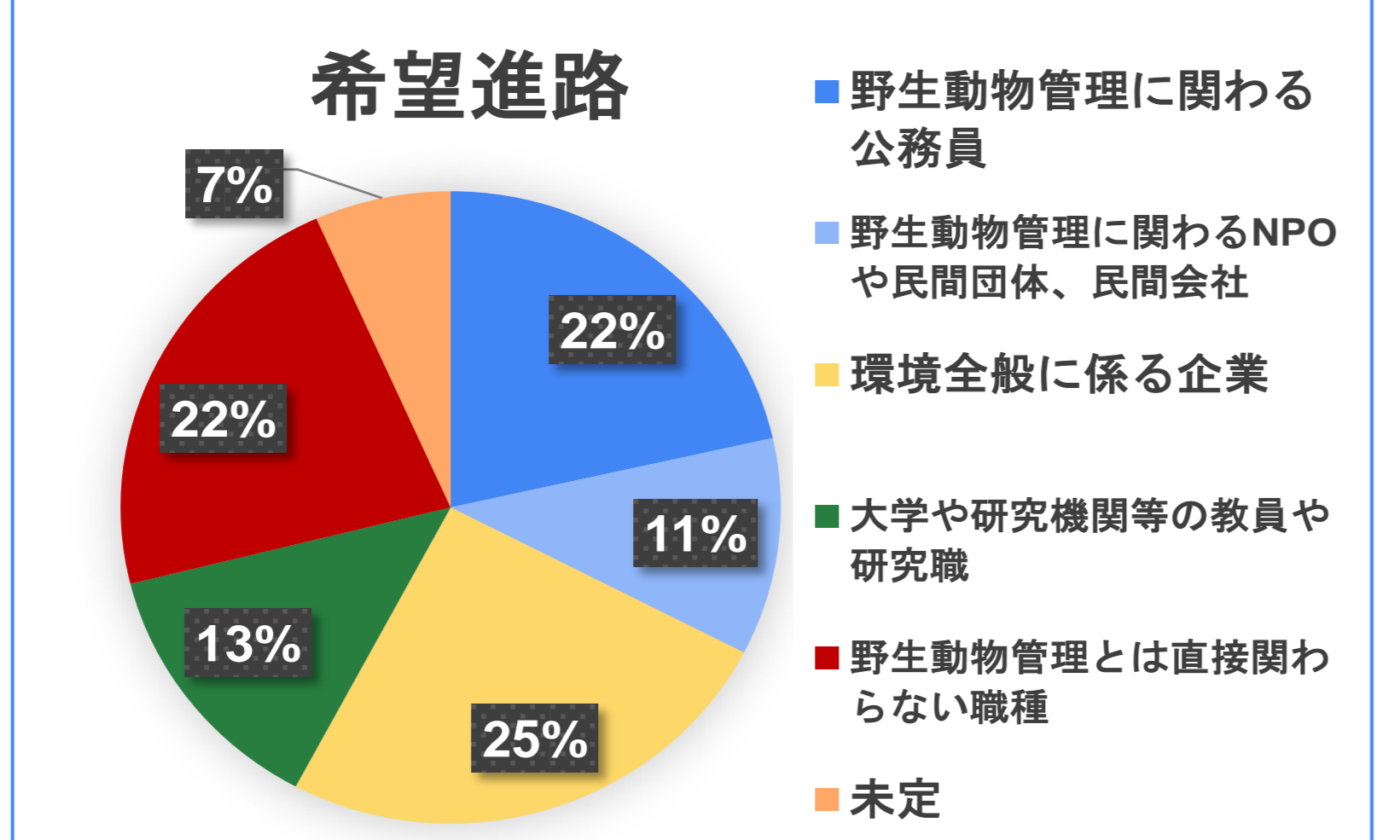


- 将来、リカレント教育を受けたい？
「受講したい」77%
「受講する考えはない」4%
「どちらでもない」19%



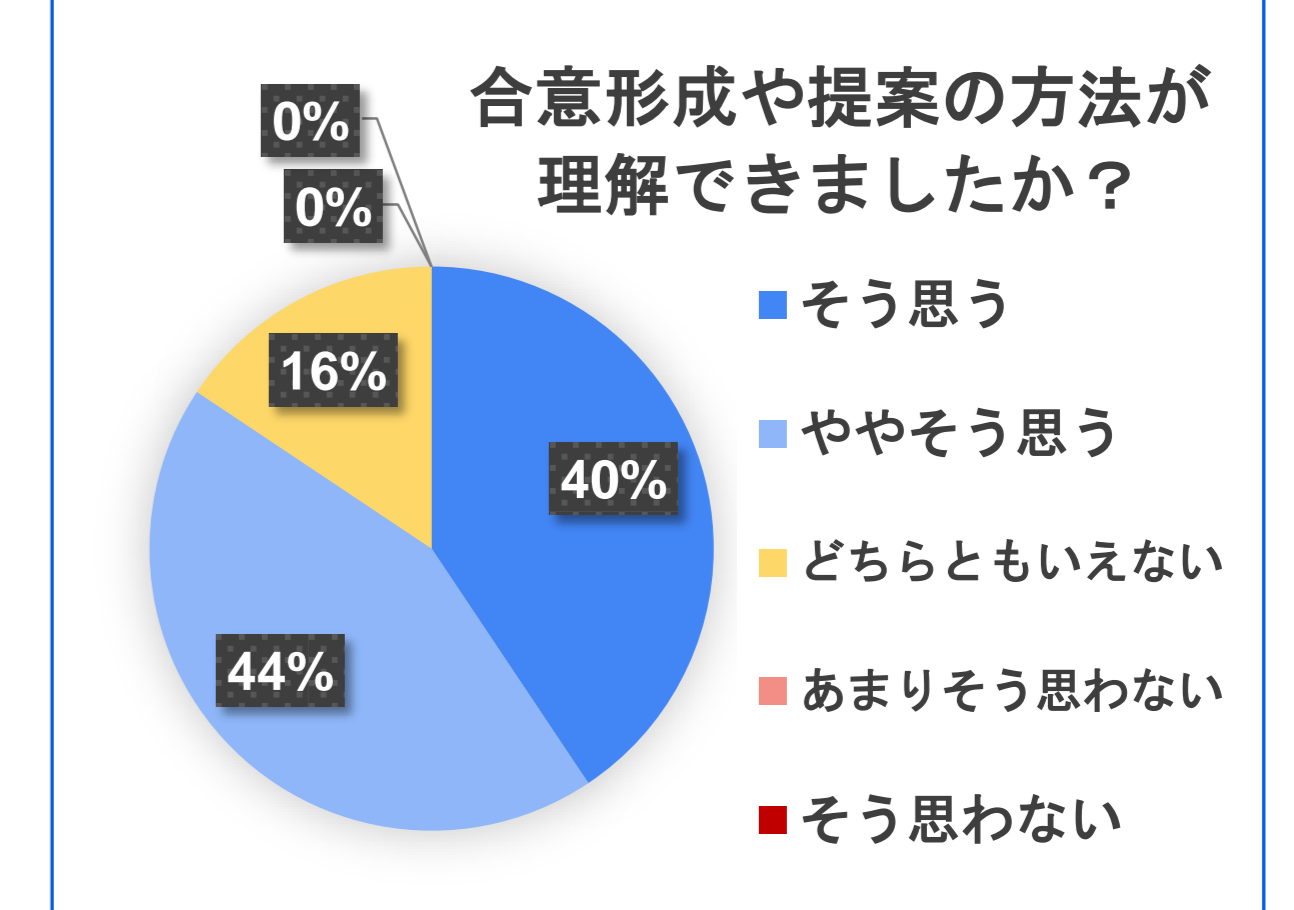
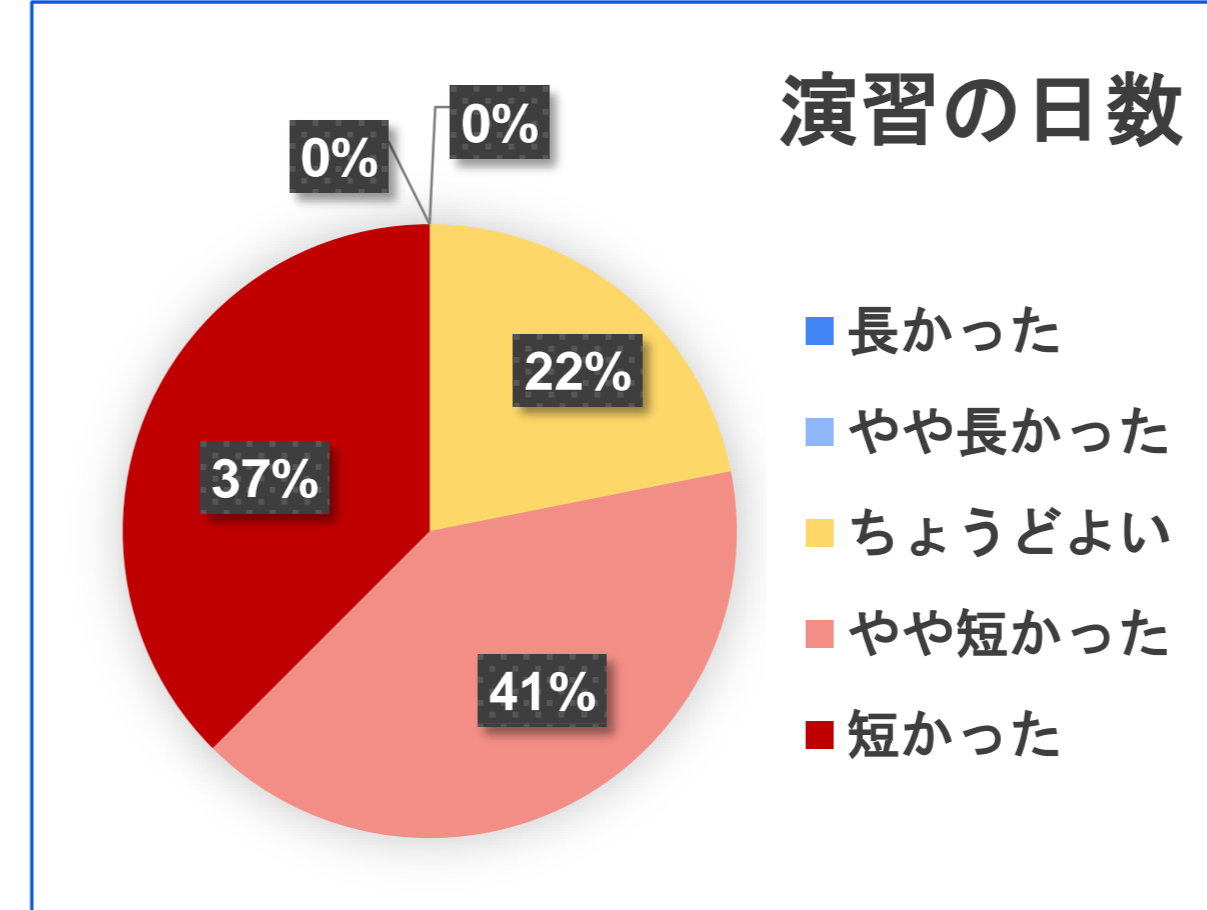
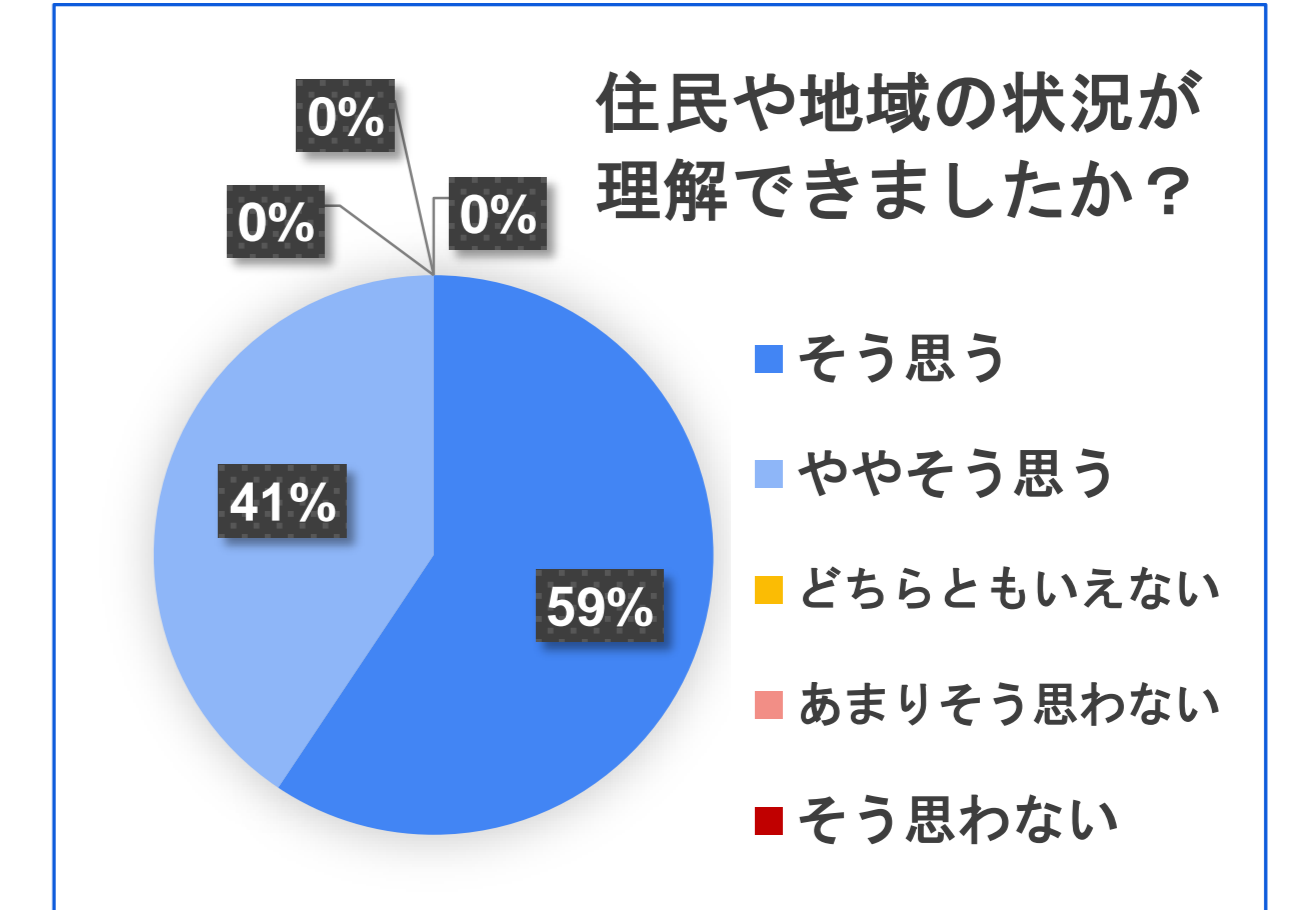
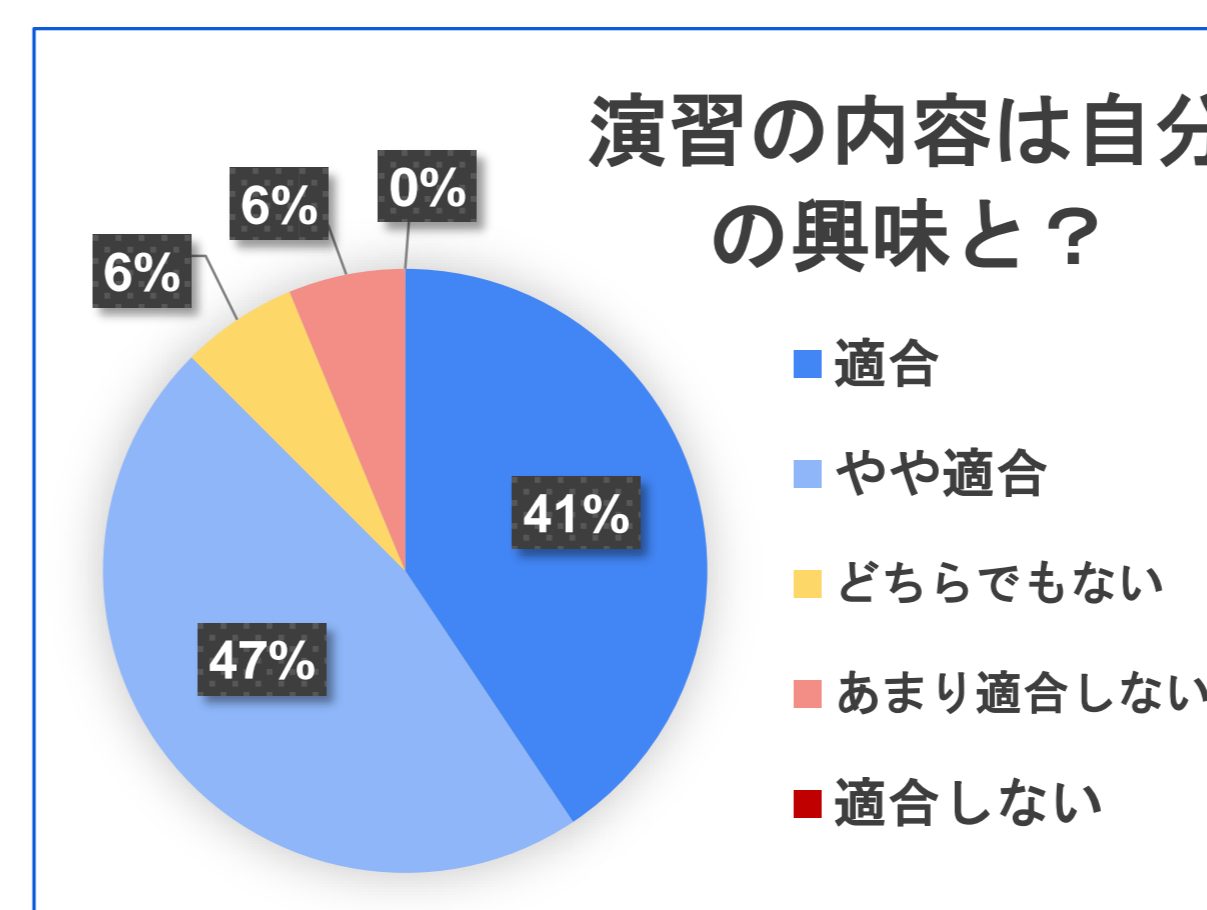
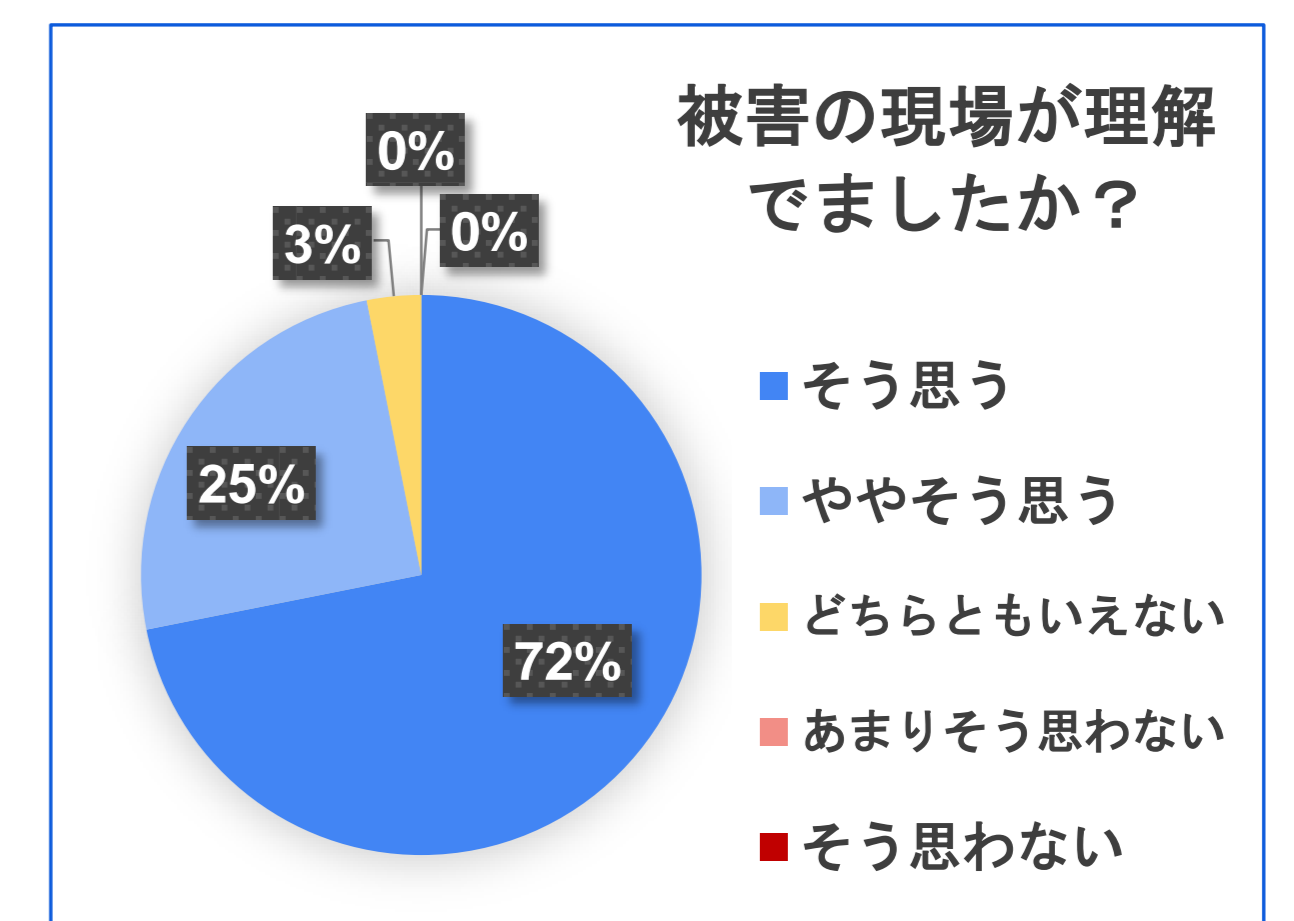
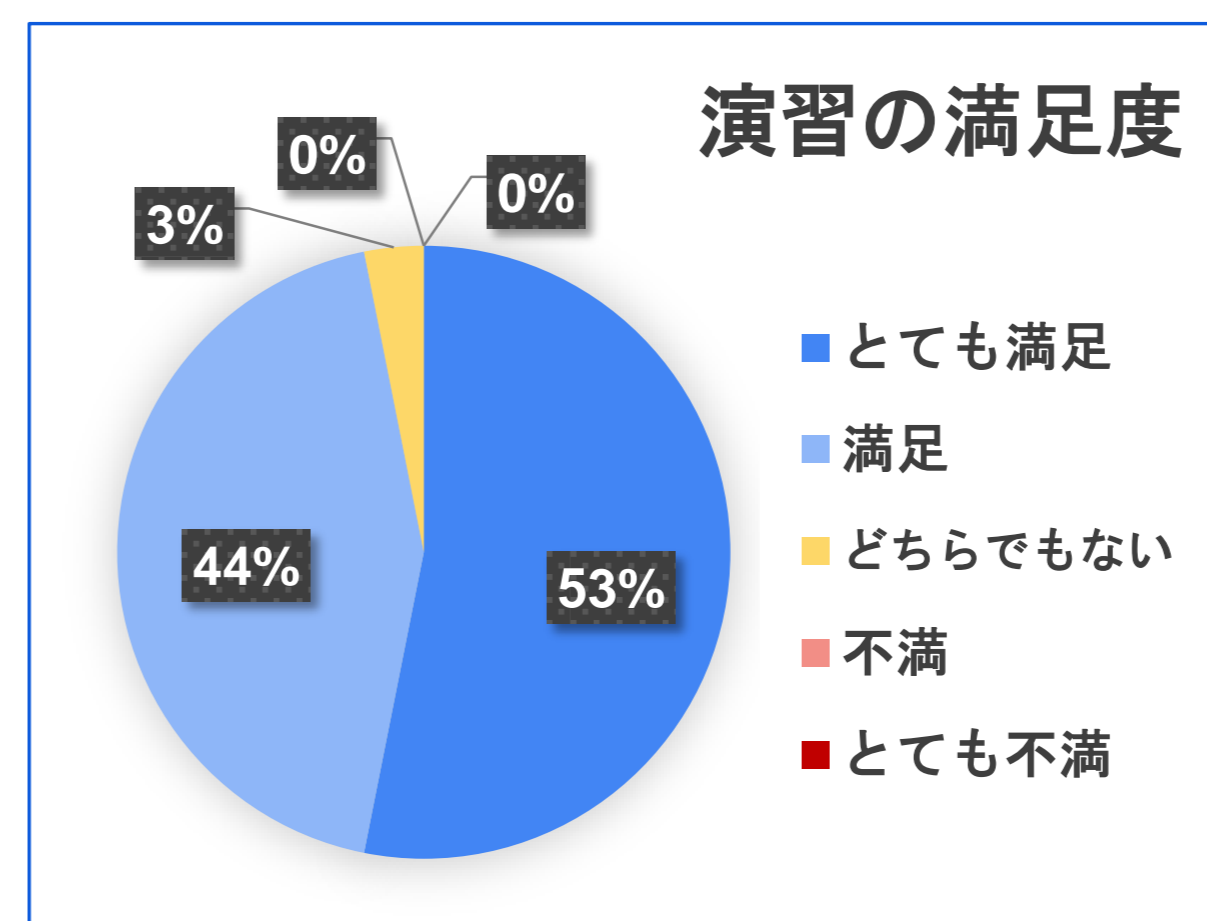
- 資格の認証制度を取得したい？
「取得したい」68%
「取得する考えはない」11%
「どちらでもない」21%

- どんな進路を希望する？
「野生動物関連」33%
「環境全般(民間)」25%
「研究職」13%
「野生動物とは関わらない職種」22%
「未定」7%



演習(対面)

- 演習の満足度：「満足」97%、「どちらでもない」3%
- 興味との適合度：「適合」88%、「適合しない」6%
- 演習の日数(1泊2日)：「短い」78%、「ちょうど良い」22%
- 被害現場の理解：97%、住民や地域の状況の理解：100%
- 合意形成・提案の方法の理解：「できた」84%、「どちらでもない」16%



謝辞

コアカリの試行にご協力いただいた講師各位、農林水産省農村振興局鳥獣対策室、環境省自然環境局鳥獣保護管理室、林野庁森林整備部森林保護対策室、東京農工大学農学部附属野生動物管理教育研究センター、住民参加型計画立案演習の開催に多大な協力をいただいた兵庫県立森林動物研究センター関係者と丹波市東芦田集落の皆さんに、感謝申し上げます。

